

第3学年 特別の教科 道徳 学習指導案

第3学年1組

- 1 主題名 よりよい学校に C 勤労、公共の精神
 2 教材名 「学校のぶどう」 (出典：光村図書「どうとく」)
 3 本時

(1) ねらい

学校のぶどうの世話をしてくれる人や上級生の話を聞いて、それを手伝おうとする和広と正太の姿などを通して、よりよい学校にするために、一人一人ができることを考えさせ、楽しい学校をつくらうとする実践意欲を育てる。

(2) 展開

	主な学習活動 ○発問 ・予想される児童の反応	○指導上の留意点 ☆評価
導入	(1) 学校の好きなところを出し合う。 ○あなたは、学校のどんなところが好きですか。 ・運動場の遊具が楽しい。 ・みんなと話し合いながら勉強することが楽しい。	○教師や職員、友達などの人物や、行事の思い出、児童が親しんでいる学校の設備など、視点を挙げて考えさせてもよい。
展開前段	(2) 「学校のぶどう」を読んで、話し合い。 ①ぶどうの世話をする安田さんや、栽培委員の人たちの話を聞いて、和広と正太は、どんなことを考えたでしょう。 ・冬の間にそんなことをしていたとは知らなかった。 ・学校のぶどうの木は、安田さんたちがお世話をしているから育っていたんだな。 ②和広と正太は、どんな思いで「おてつだいをしてもいいですか。」と言ったのでしょうか。 ・僕たちも、たくさんのぶどうを实らせる手伝いがしたい。 ・安田さんたちに協力したい。	○一つ一つの作業に多くの手間がかかっていることを確認し、そのうえで和広や正太の思いを捉えさせる。 ○「自分たちがしなくても、任せておけばいいのでは」などと補助発問を行い、学校のために自分ができることをしようとする姿を意識させる。
展開後段	③学校のために、あなたができそうなことはどんなことでしょう。 ・そうじの時間にすみずみまできれいにする。 ・落ちているゴミを拾ったり、主事さんのお手伝いをしたりする。	○ここまで話合ってきたことを踏まえ、自分が自分の学校のためにできることを考えさせる。 ☆考えてきたことをもとに、自分が学校のためにできることを考えている。
終末	(3) 「つなげよう」を読む。 ○この学校でも働いてくれている人がいますね。どんなことをしてくれているでしょう。 ・交通安全擁護さんが登下校の見守りをしてくれている。 ・主事さんが朝学校をきれいにしてくれている。	○登下校の様子や、いつも校庭がきれいな状態であることをヒントとして与え、思い浮かぶようにする。